事業名 外国語教育、環境教育を活用した『持続可能なまちづくり』創造事業

採択大学等名

獨協大学

連携市町村名

田村市

取組概要（目的）

本学と田村市との間で継続的な連携関係を構築し、これまで大学が培ってきた「外国語教育」「環境教育」に関する資源やノウハウを活かした事業を展開し、情報発信と「環境に配慮した持続可能なまちづくり」の仕組みを構築し、それを相双地域の他の浜通り市町村に展開していく。
本学と浜通り市町村等において、SDGs達成の担い手との復興に貢献する人材の育成を目標とする。本学の学生や地域の子ども・若者をはじめとする住民が、持続可能な社会を実現するために地域社会や国際社会において活躍できるようになることが目的である。

これまでの成果

連続講座「子ども未来講座」を開講

・田村市教育委員会と協働して、連続講座「子ども未来講座」を開講。市内の児童を募集し、船引小、美山小、常葉小から5・6年生13名が参加。全6回にわたって、「世界から見たフクシマ」を意識しながら英語で自分が住む田村市について発信する機会を提供。 4つのグループに分かれテーマを決め、効果的なプレゼンテーション資料の作り方を学び、ジェスチャー・声の出し方など表現もみがき、資料を制作した。本学留学生とも交流し、毎回本学学生がアドバイスをし、子どもたちの気づきを引き出すサポートをした。第5回では草加市の小学生ともZoom交流。子どもたちが田村市の地域資源を再発見し、多くの人々に向けて発信することができるようになった。子どもたちの地域発見、伝えたいことを英語にする体験のみならず、本学学生も交流を通じて刺激を受け、双方の人材育成に寄与する取り組みとなった。

「第４期田村市地球温暖化対策実行計画」の施策展開に協力

・田村市役所職員研修「脱炭素社会について考える」の実施に協力。学生が、「地域新電力による電力の地産地消のすすめ」「再エネを活用した電気自動車によるMaaS (Mobility as a Service)」など4つの報告を行った。
・小学校2校における環境教育・SDGs教育の実施。船引小⇨4年生3クラス(90名)を対象に「川を汚しているのはだれ？」というテーマで、6年生4クラス(109名)には「SDGsって何？」をテーマに学生が授業を実施。船引南小⇨5年生1クラス(20名)を対象に「SDGsって何？～環境分野(地球温暖化を中心に)～」をテーマに授業を実施。
・『たむら市政だより』9 月号から、地球温暖化対策の連載コラム「ちょこっと、エコライフ～身近な省エネを実践しよう！～」を学生が執筆。 Vol.1 ライトダウンからはじめよう！などテーマを替え、獨協大学のホームページの解説ページへもリンク。

田村市国際交流協会が開催する国際交流イベントの開催に協力

・田村市国際交流協会事業「ハートtoハートin田村2023」開催に協力。本学の学生・留学生が参加し、円滑な実施に向けて協力。当イベントに参加する市民、田村市在住の外国人と、本学学生・留学生が交流。

田村市の農業関連分野の協力

・地域の担い手になると期待される農家や企業を訪問調査。
・Agri Creator's ∞ Tamura(アグリクリエイターズたむら)のマルシェ開催に協力、草加市ふささら祭り、大学学園祭にて田村市物産展出店に協力→地域の農家や田村市職員との信頼関係を築く。

その他

・田村市観光サイトの多言語化プロジェクト：タイ語、英語、スペイン語、中国語、トルコ語が完了。残るは韓国語、フランス語
・本学ホームページの「復興知事業」サイトの一新とその運用開始、復興知事業についての情報発信

第2回「子ども未来講座」ではJA直売所 ふぁせるたむらを留学生と一緒にフィールドワーク

第3回「子ども未来講座」では、大学生スタッフがプレゼンテーション資料の作り方を指導

田村市役所職員研修「脱炭素社会について考える」での学生報告

田村市立船引小学校で、6年生クラスでは「すごろく気候変動適応への道」を使ったワークショップ、4年生クラスでは、アクリルたわし制作のワークショップを実施。

事業終了時点の成果及びその後の見通し

外国語教育

・田村市の英語教育・多言語化・多文化共生に関して、本学が継続的に協力していく仕組みができる。外国語教育が地域貢献につながる。
・子どもたちが田村市の観光資源・地域資源について目を向けて英語で発信することができるようになることで、子どもたちの地域貢献の意識も高まる。

環境教育

・本学学生が提供する環境教育・SDGs教育を、田村市の小学校におけるカリキュラムに位置付け、継続的に協力していく仕組みができる。地域の課題を大学生が子どもたちと共有。震災復興に取り組む、地域社会において、大学生も問題意識を醸成できるようになる。

環境に配慮した持続可能なまちづくり

・脱炭素社会実現や、再生エネルギーをまちづくりに活かす取り組みが活発化、地域循環共生圏の実現を目指したまちづくりが始動する。